

令和三年度 九州国際大学付属高等学校

# 国語 入学試験問題

問題用紙（1～19ページ） 試験時間（50分）

## 注意事項

1. 試験問題は、試験開始の合図があるまで開けないこと。
2. 試験開始後、問題冊子の印刷の不具合などに気付いた場合は手を挙げて監督者に申し出ること。
3. 解答はすべて解答用紙に記入すること。
4. 携帯電話、計算機、アラーム等の使用は禁止する。
5. 体調不良等の場合は、監督者に申し出ること。
6. 問題用紙は、各自持ち帰ること。

## 字数制限のある問いについては、句読点も一字とします。

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

サッカーはやるのも見るのも好きである。もともと、最近はどちらも、あまりその機会がないことを残念に思う。

イギリスに留学していた時、かの国ではどこにも芝生しほふがあるのでびっくりした。広々と、手入れの行き届いた緑地。近所のごく普通の学校の校庭も一面、芝生で㉑オオわれていた。

どうやら芝生のような丈の短い草はイギリスの気候に合っているらしく、至るところに気持ちのよい緑地が広がっている。寝ころぶと青空が目㉒にシ㉓みる。芝生と陽光さえあれば、あとはもう何もいらぬという気分になる。

サッカーをやるにしても、芝生の上ならば気持ちが良い。ひるがえって日本の学校のグラウンドを思い返せば、土埃ちぼろの舞うむき出しの地面である。聞くところによると、芝生は設置も維持も大変な費用がかかるという。日本の風土に合った芝を開発できたら、日本のサッカー少年たちの足元をやさしく支えてくれるだろう。

イギリスに㉔タイザイして、㉕彼の地の芝生の背後にある、㉖思わぬ事情に気付いた。小さな軒家を借りて住んでいた。庭は綺麗きれな芝生で、これはいいやと喜んでいたが、一カ月もすると草がぼうぼう生えてきた。一体どこからこんなにと呆あきれて調べてみると、葉っぱがギザギザなのや、花が赤いのや、茎が白いのや種類がいろいろある。

**I**、イギリスの緑地は放っておけば芝生になるのではなくて、絶えざる手入れが必要なのだとわかった。放置しておけば、日本の空き地に負けず劣はんらず繁茂はんも状態となってしまう。それを熱心に刈り込んでいるからこそ、美しく平らかな緑地になる。

子どもの頃、蝶を追いかけるのが趣味だった私としては、草を伸ばして花を咲かせたら、どのような蝶が来るか興味津々しんしんであった。ところが、「近所の目」というものがある。家の借り主の最大の責務の一つは、きちんと草を刈って芝を手入れしておくことらしい。いわゆる「芝草」でなくとも、短くさえ刈っていれば、どうやら芝らしくなる。頭の中では雑草が茂っている庭の様子を㉗ムソウしながら、仕方なしに定期的に草を刈った。

㉘「雑草」などという名の草は、本当はない。人間の都合で決めただけのことである。生物的多様性という視点から見れば、少数の有用植物だけでなく、様々な雑草が生えているほうが豊かである。地球の生態系のことを真剣に考えなければならぬこれからの時代、雑草といえは目の敵かたきのようにして刈ったり、抜いたりしているだけでは駄目だめである。私たちは、雑草に対する考え方を改めなければならない。

いちいち種類を調べて同定する<sup>(注1)</sup>のはメン<sup>⑥</sup>。ドウだから、とりあえずは「雑草」という名前を使うのは仕方がない。一つひとつの草の生命のかけがえのなさに対する尊敬と愛情を込めて「雑草」と呼ぶことにしたらいいと思う。

私は植物を育てるのが趣味で、時々鉢植えを買ってくる。大学生の時は、ランを育てることにハマった。胡蝶蘭<sup>こちょうらん</sup>などはずいぶん難しく苦勞した。最近では、もっと手軽に世話のできる鉢植えを買ってくるようにしている。

Ⅱ、水をやったりというような世話はするが、できるだけ手間をかけないようにする。そのうち、もともと鉢植えの主役だった植物だけでなく、様々な雑草も生えてくる。いつの頃からか、それらの草を敢えて抜かずに、そのままにしておくようにした。

Ⅲ 興味深いことが起こる。どこから種がやってくるのか、次々と草が生える。鉢の中に生物多様性の小宇宙ができる。その様子を眺めているのが、実に楽しいのである。

異なる種類の植物が、生育するための地面のスペースを求めて競い合い、やがて適当なバランスをもって共生する。そのような有り様を見ているだけで、「生態系」とは何かを学ぶことができる。

④ 自らの思いのままにコントロールするという視点から離れてみて初めて、生態系が持つ本来の豊かさ、複雑さ、奥行きが実感できる。雑草は邪魔だから抜いてしまえという態度では、いつまで経っても生態系の神髄<sup>しんずい</sup>を学ぶことができないのである。

Ⅳ、近代の人間は自然を制御することにかまけすぎたのであろう。農薬をまき、「害虫」を根絶やしにする。除草剤をまいて、雑草を絶つ。その結果、経済的には有用な効果を得られるかもしれないが、生物と生物が共生するということはどういふことか、その大切な叡智<sup>えいち</sup>が失われてしまった。

⑤ あげくの果てに、人間の内なる「自然」まで制御しようとする。もともと、脳の働きなど思いのままになるものではない。自分や他人の無意識という、本来制御できないものをコントロールしようとするから、どうしても無理が来る。歪み<sup>ゆがみ</sup>が生じる。

私たちの脳は、有用植物だけが生え、雑草は刈り取られる管理された農園よりも、様々な雑草が繁茂し共生する荒地地に似ている。脳の本質は内なる多様性であると肝<sup>きも</sup>に銘<sup>めい</sup>じていないと危ない。思わぬしつぺ返しを受ける。

受験や仕事など、ある特定の目的のために様々な雑念を抑えつけることは、いきすぎれば脳の健康に悪い。多様な雑念が共生してこそ、初めて脳は強靱<sup>きやうじん</sup>になる。創造性も生まれる。

⑥ 雑草ガーデニングをやって、多様性のもたらす豊かさを実感してみてはどうか。これからの時代に保護されるべきは、<sup>⑦</sup>外なる自然の多様性だけではない。内なる自然も同じことである。

(茂木 健一郎 『脳はもつとあそんでくれる』から)

(注) 1 同定 —— 生物の分類上の所属を決定すること。

2 叡智 —— 深い道理を悟ることができる、優れた才能と知恵。

問一 二重傍線部①～⑤に相当する漢字を含むものを、次の各群のア～エの中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

① オオわれて

- ア フクスイ盆に返らず。
- イ 相手にフクジュウする。
- ウ 感情のキフクの激しい人だ。
- エ 薬にはフクサヨウがある。

② シみる

- ア ムセンで連絡を取り合う。
- イ 汚れた食器をセンジョウする。
- ウ 当手をセンメイに思い出す。
- エ 伝統の織物をセンシヨクする。

③ タイザイ

- ア 晴れのブタイに立つ。
- イ 情勢の変化にタイオウする。
- ウ 前線がテイタイする。
- エ 役所からタイシユツする。

④ ムソウ

- ア 毎日ジム作業に追われる。
- イ 読書にムチュウになる。
- ウ 文章にムジュンが生じる。
- エ 急にノウムが立ちこめる。

⑤ メンドウ

- ア トウテイ理解できない。
- イ トウブンの間はこの体制だ。
- ウ あの飛行機にトウジョウする。
- エ 大きな建物のトウカイを見る。

問二 空欄Ⅰ～Ⅳに入るものとして、最も適当なものを次の中からそれぞれ

一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ア もちろん
- イ なるほど
- ウ 思うに
- エ しかし
- オ すると

問三 傍線部①「思わぬ事情」とはどういうことですか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア イギリスの芝生を美しく保つためには定期的に草を刈り込み、常にご近所の目を意識すべきだということ。

イ イギリスの芝生は手入れを怠ると、葉の形や色の種類が豊富な日本とは異なる雑草が生えてくるということ。

ウ イギリスの芝生には丁寧な手入れが必要であり、そこに手間をかけているからこそ美しいのだということ。

エ イギリスの芝生は日本と異なり、至るところにあるが、設置と維持に多くの費用を必要とするということ。

問四 傍線部②『雑草』などという名の草は、本当はない」とありますが、筆者がそのように考える理由として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 一つひとつの草の生命のかけがえのなさに対する尊敬と愛情を込めて「雑草」と呼ぶ人たちがだんだんと多くなってきたから。

イ 地球の生態系のことを考えれば、人間にとって役に立つ植物だけでなく、様々な種類の植物の存在が必要であるから。

ウ 植物を育てるときには、水をやるなどの世話はするが、できるだけ手間をかけない方が様々な植物が生えて美しくなるから。

エ 生物と生物が共生するということはどういう状況かを知るうえで大切な叡智を求める営<sup>いとな</sup>みを現代人は忘れてしまったから。

問五 傍線部③「その様子を眺めているのが、実に楽しいのである」とありますが、その理由として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 様々な植物が共生しあう姿を見ると、生態系の在り方を学ぶことができ、大変興味深いから。

イ 意外な植物が生えてくるのを見て、その種がどこから飛んできたのかを想像することに心ひかれたから。

ウ できるだけ手間をかけないことで思いがけない植物が生えてきて、その変化を見るのが面白いから。

エ 小さな鉢植えの中で多くの草の成長を見ることによって、生命のかけがえのなさを感じられるから。

問六 傍線部④「自らの思いのままにコントロールする」とありますが、そのような立場に立つと、どのような利点がありますか。解答欄に合わせて本文から十五字以内で抜き出し、**最初と最後の三字**を答えなさい。

問七 傍線部⑤「人間の内なる『自然』まで制御しようとする」とありますが、筆者はこのことによつてどのような問題が起こると考えていますか。「脳」、「創造性」という言葉を必ず使つて、解答欄に合わせて十五字以上二十字以内で説明しなさい。

問八 傍線部⑥「雑草ガーデニングをやつて、多様性のもたらす豊かさを実感してみてはどうか」とありますが、「豊かさ」と同様の意味で使われている二つの語を、本文からそれぞれ三字で抜き出しなさい。

問九 傍線部⑦「外なる自然の多様性」とありますが、そのような状態について説明した一文を本文から抜き出し、**最初と最後の五字**を答えなさい。

問十 次に示すのは、四人の生徒が本文を読んだ後に話し合っている場面です。本文の内容をふまえて、趣旨に最も近い発言を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 生徒A —— 筆者は自分のイギリスでの留学経験を述べつつ、そのことと関連させて生態系という考えにも触れ、自然と人間の内部には非常に大きな違いがあることを強調しているね。

イ 生徒B —— その違いをふまえて、筆者は雑草の強くてたくましい生命力をほめたうえで、人間が内部に秘めた力を伸ばすことにその生命力が役立てられないかどうか、真剣に考えているんだね。

ウ 生徒C —— そうかなあ、筆者は雑草と脳には確実な共通点があることに気づいたからこそ、ガーデニングが私たちの脳に及ぼす様々な利点について、それぞれ具体例をあげて紹介していると思うよ。

エ 生徒D —— 筆者は留学を初めとした身近な体験を通して、今を生きる私たちが抑圧された状態から抜け出し、自然な姿に近づく必要性があることをこの文章で伝えようとしていると言えるね。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

大阪の学習塾で働く松田水青<sup>しみず</sup>は、塾に出入りする業者の紺野<sup>こんの</sup>さんとの結婚が決まった。水青は、小学生の時に通りすがりの男性からスカートをはき切られる事件に遭<sup>あ</sup>い、その事件を学校の先生へ祖母と一緒に報告した際、水青のスカートを見た先生に「ひらひらしとるなあ」と言われた過去を持っている。その時、かわいい服を着ていたから事件に遭<sup>あ</sup>ったと非難されたように思い、以来、かわいいものに嫌悪感や疑問を持つ。以下の文は、裁縫<sup>さいほう</sup>が趣味の弟・清澄<sup>きよすみ</sup>（キヨ）が、姉のためにドレスを作ると宣言した後の場面である。

メジャーが胴にぐるりと巻かれる。肩に、腕に、つぎつぎと当てられる。祖母は手元のノートに数字を書きつけて、細いなあ、とため息をついた。

「おじいちゃんも見送<sup>おく</sup>ったし。水青も結婚するし、心配でおちおち死ねません、なんてことないから、幸せなことやで」

さつ子は、と自分の娘の名を口にして、なにがおかしいのかくすつと笑った。

「あの子はまあ、なにがあっても自分でなんとかするやろうし」

「キヨは？」

「だいじょうぶや、あの子なら」

キヨは、自分のなりたいたいものになっていく。そんなふう<sup>たいこばん</sup>に太鼓判<sup>たいこばん</sup>を押される弟への羨望<sup>せんぼう</sup>。そこに、ほんのりと濁<sup>にご</sup>った色が混じる。あんたはええなあ、と憎々しげにため息をつきたいような、そんな汚くて暗い気持ち。

「好きなことだけして生きていきたい、なんて甘くないかな。わたしはとにかく、堅実な人生がいい。今、そんなふわふわした夢見られる時代やないと思う」

鉛筆を走らせていた祖母が老眼鏡をずらして、すくい上げるようにわたしの顔を見た。

「時代？」

「そう」

「こんな時代だからこそ、『堅実』なんてあてにならないと思うけどねえ」

祖母が浮かべている薄い笑<sup>え</sup>みの意味するところがわからない。呆<sup>あき</sup>れ。憐憫<sup>れんびん</sup>。あるいはもつとべつ<sup>そ</sup>のなにか。気<sup>そ</sup>ま<sup>そ</sup>ずく逸<sup>そ</sup>らした視線の先に、おびただしい量のふせんがはられた本がある。

『カスタマイズできるウエディング&カラードレス』。

「見ていい？ あれ」

「もちろん」

Aラインのドレスや胸元で切り替えのあるエンパイアラインのドレスなど、たしかにパターンそのものはそう複雑ではないが、「縫いかたの順序」の頁は何度読んでも目が滑る。内容がちつとも頭に入っていない。

清澄の手による書きこみがいくつもしてあった。知らない単語には蛍光ペンで印がつけられ、余白の部分に意味が書きこまれている。

「勉強もこれぐらい熱心にしたらええのに」

「まあ、そこはキヨやからね」

「……おばあちゃんはこの本に載ってるドレス、どれがいちばんシンプルやと思う？」

開いた頁に視線を落として、祖母は「ぜんぶ」とこともなげに答える。

「ぜんぶシンプルや」

シンプル。同じ言葉を使っている、それぞれに思い描くものが違っている。そこにこめた意味あいも。

「そんな嫌？ ドレス着るの」

祖母が問う。口調はあくまでもやわらかい。

「これとか、かわいいと思うけどなあ」

祖母が指さすAラインのドレスにはいっさい装飾がない。でもこれを着るのはわたしではない。

「かわいいから嫌なんや」

祖母は清澄のように、なんで、とは、問わない。そうか、と眉を下げるだけだ。

「なあ、見てこれ！」

祖母が突然ブラウスの裾をがばっとめくりあげた。

「え、なに、いきなり」

「ほら、かわいいやろ」

ブラウスの下に着た薄いTシャツの裾に、薔薇の刺繍がしてあった。

「キヨにやってもらってるん、これ」

棘は鋭く、花弁は赤く、ただの刺繍のくせに、植物の生命力を感じさせる。弟が施した刺繍をまじまじと見るのははじめてかもしれない。わたしの目には「力強い」と感じる薔薇だが、祖母にとってはこれが「かわいい」なのだ。③「シンプル」の意味あいが違うように、「かわいい」もまた、違っている。



祖母が持ち上げていたブラウスをおろした。

「Tシャツ一枚で着ることないから、このかわいい薔薇は誰にも見えへんの」

「そしたら、刺繍の意味くない？」

祖母の指が、ブラウスの上から愛おしげに隠し持った薔薇をなぞる。

「かわいいって、おばあちゃんにとってはどういうこと？」

「そうやねえ。祖母は頬ほほに手を当てて、しばらく考えていた。

「自分を元気にするもの。元気にしてくれるもの。……水青がかわいいのは嫌って思うことは、べつに悪くない。誰もが同じ『かわいい』を指す必要はないからね」

けど、という祖母の話の続きが聞けなかった。ぶーん、と音を立てて、畳の上に置いたスマートフォンが震えている。紺野さんからの電話だった。

「すいか」

電話に出るなり、紺野さんが唐突にくだものの名を口にする。なにかの暗号だろうか。

「いきなりなに」

「すいか、一玉いらん？」

なんか、知らんけど、さっき、会社でもらってん。言葉を区切るたびにフウフウと苦しそうに息を吐く。

「お母さんと食べたなら？」

「うちのおかん、すいかは嫌い……あのさ、じつはもう……家のすぐ近くまで来てて」

「えっ」

じゃ、持っていくから……待ってて。その言葉を最後に、やや唐突に電話が切れる。

「すいか、持ってきてくれるって」

「あら」

祖母が窓の外に目をやる。すこし心配そうに、頬に手を当てた。

「でも、雨降ってるね」

「ちよっと、見てくる」

玄関で一度ビニール傘を手にとってから、水色の傘を選んだ。紺野さんがくれた傘。

絹の糸のように細くやわらかい雨が降り注ぐ。川の水は、いつもより濁っているようだ。

ほんとうはわかっている。かわいい服が悪いのではない。スカートを切られたのは、デザインのせいではない。

「ひらひらしとるなあ」と言われた時、わたしは怒るべきだった。怒ってよかった。

原因はお前にあったのだと、他人にそう言われることを避けるために「かわいい」を避け続けた。わたしは悪くないと主張するためだけに。

かわいい、のせいじゃない。他人の服を切るような人間、それをわたしの服のせいだと言う人間に、怒り続ければよかった。自分の服装や行動を制限するのではなく。

④ 今からでも、遅くないだろうか。

これから先も、わたしが「かわいい」服を選ぶことはないかもしれない。だけど、いろんなことを「かわいい」のせいにするのはやめよう。流してしまおう。この雨と一緒に。それからまた、新しく選び直そう。わたしを「元気にするもの」を。

橋を渡ってすぐ、すいかを抱えて歩いてくる紺野さんを見つけた。ひとりではなかった。ななめ後ろを、清澄が歩いていた。

学校から帰ってくる途中で偶然会ったのだろうか。清澄は紺野さんに傘をさしかけている。それまで傘なしで歩いてきたのか、紺野さんの前髪は濡れてぺったりと額ひたいにはりついていた。すいかを落とさないように、真剣な表情でゆっくりと慎重に歩いている。

かわいい。

その言葉が勝手に唇くちびるからこぼれ出た。紺野さんは、かわいい。コピー機の点検をする時や、わたしになにかを伝える時、紺野さんがよくする、あの顔。

一生懸命な紺野さんは、とてもかわいい。

⑤ 雨はまだ降り続けているのに、自分の頭の上だけ、さっと明るくなったような気がした。ああ、そうか。風を受けるように、日の光を浴びるように、はればれと理解した。ああ、そうか。わたしの「かわいい」は、好きってということなんや。

「紺野さん」

大きな声で名を呼ぶと、紺野さんがようやくこっちを見る。まずわたしを見て、そのあと傘に気づいた。視線の動きでそれがわかった。清澄がさしかけた傘の下で、紺野さんの頬がゆっくりと持ち上がる。

(寺地 はるな『水を縫う』から)

(注) 1 Aライン

2 エンパイアライン

ともにドレスの形。

問一 傍線部Ⅰ・Ⅱの本文中における意味として、最も適当なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

Ⅰ 太鼓判を押される

- ア 目上の人から信頼されること
- イ 間違いないと保証されること
- ウ 将来有望だと期待されること
- エ 多くの人から応援されること

Ⅱ こともなげに

- ア たいして間をおかないですぐに
- イ あまり深く考えないまま気楽に
- ウ 関心を持たない投げやりな態度で
- エ 何でもないかのように平気な様子で

問二 傍線部①「ほんのりと濁った色が混じる」とありますが、その理由として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 弟のように「かわいい」ものを作る才能や技術を持っていないため、自分に対して自信が持てず、自分の人生をどう歩んでいったら良いかわからないことに苦悩したから。

イ 「かわいい」という感情を理解しようと真剣に悩んでいるのに対して、弟は好きなことしかやらずに、たいして悩むこともなく生活していることに理不尽さを感じたから。

ウ 現実を見つめて地道に自分の人生を歩いていかなくはならないと思っている一方で、弟は自分の好きなことだけをやって、祖母から認められていることに嫉妬したから。

エ 母は自立した人物として、弟は自分の進みたい道に向かっている人物として祖母から評価されているが、自分だけが祖母の評価を得られていないことに不満を感じたから。

問三 傍線部②「気まづく逸<sup>そ</sup>らした視線の先に」とありますが、視線を逸らした理由として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 自分が持っていた時代や人生に対する考えと異なる意見を述べた祖母の気持ちに触れて、急にいたたまれなくなったから。

イ 堅実さを求めるあまり、弟の生き方や価値観を否定してしまったことを祖母に責められ、やるせない気持ちになったから。

ウ 祖母は弟の才能を高く評価してその将来を期待しているが、自分には特に関心がないことに気がついて深く悲しんだから。

エ 人生に対する考え方を強く否定されて、祖母に対して激しい怒りを覚えたが、その感情を何とかして隠そうと思ったから。

問四 傍線部③『シンプル』の意味あいが違うように、『かわいい』もまた、違っている」とありますが、水青と祖母にとっての「かわいい」の違いを説明したものととして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 水青にとっての「かわいい」は、他人とデザインが同じでない唯一無二のものが、祖母にとっての「かわいい」は、デザインは同じでも隠しておくことで価値が出るものということ。

イ 水青にとっての「かわいい」は、自分をひどく不格好<sup>ぶかつこう</sup>にみせてしまう大嫌いなものが、祖母にとっての「かわいい」は、現在の年老いた自分に若々しい生命力を与えるものだということ。

ウ 水青にとっての「かわいい」は、多くの人が共感するような素敵で力強いものだが、祖母にとっての「かわいい」は、物が乏<sup>とほ</sup>しかった時代に贅<sup>ぜい</sup>沢を感じさせてくれるものだったということ。

エ 水青にとっての「かわいい」は、小学生の時の体験を思い出してしまう嫌なものだが、祖母にとっての「かわいい」は、他人の評価などは全く関係なく自分に力を与えるものだということ。

問五 傍線部④「今からでも、遅くないだろうか」とありますが、このときの水青の気持ちを説明したものとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 事件のことを早く忘れるようにと求めてくる母や祖母に対して、冷たい態度で接したことを後悔する気持ち。

イ 過去の出来事にこだわって窮屈ききつぱくな生き方をするのではなく、心のわだかまりを捨てて生きていこうとする気持ち。

ウ 「かわいい」ものを嫌い続けた自分のせいで不快な思いをさせてきた人々に対して、許してほしいと思う気持ち。

エ 過去に自分をひどく傷つけた人たちを許して、晴れ晴れとした心境で自分の人生をやり直すようにする気持ち。

問六 傍線部⑤「雨はまだ降り続けているのに、自分の頭の上だけ、さっと明るくなったような気がした」とありますが、このときの水青の様子を説明したものとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア すいかを抱えて運んでいる紺野さんの姿を見て、素直な気持ちになったことや、自分が「かわいい」ものを受け入れられることに気づいて感動がこみあげている。

イ これまで抱いてきた「かわいい」ものに対する拒否感と悪い記憶が雨に洗い流されて、純粋な気持ちで「かわいい」ものを強く肯定できそうな予感がしている。

ウ 紺野さんが歩く姿を見て、紺野さんに抱いていた「かわいい」という感情が「好き」であるということを確認できて、結婚に対しての不安がなくなっている。

エ 雨の中を紺野さんが選んでくれた傘をさして歩いたことで、紺野さんに守られている気持ちになり、今後二人でうまくやっていけるといいう希望がわいている。

問七 本文には次の会話文が抜けています。どの文の前に入りますか。直後の文の**最初の五字**を抜き出して答えなさい。

「あるよ。見えない部分に薔薇を隠し持つのは、最高に贅ぜいたく沢な『かわいい』の楽しみかたやろ」

問八 本文には水青に対する紺野さんの愛情が態度としてよく表わされている一文があります。その一文を本文から抜き出し、**最初の五字**を答えなさい。

問九 本文から読み取れる水青に対する祖母の気持ちの説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 「かわいい」ものを受け入れられずに苦しむ水青をいたわりつつも、過去にとらわれている水青を情けなく感じている。

イ 現実的な水青の発言に世代の差を感じて戸惑いながらも、未熟な水青を根気強く良い方向に導きたいと考えている。

ウ 水青の発言を強く否定することもなく、穏やかな気持ちを保ちながら、ありのままの水青を受け入れようと思っている。

エ 「かわいい」ものへの極度に神経質な水青の言動に驚きつつ、弟の好意に対して不信感を抱く水青を心配している。

三 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

(注1) 松永弾正久秀、多門在城の時、果心居士とて幻術のものあり。 (注2) 閑暇の時はかたり慰む。あ

る夜、弾正、「われ戦場において白刃を交じふるに至りては、終に恐懼の心を動かすことなし。 (注3) 汝試みに幻術を行ひて我を恐懼せしめよ」といふ。果心、「さらば近習の人を遠ざけて、寸刃を

も持ちたまはず、灯も消したまへ」などいへば、各々立ちのきける。刀剣のたぐひを置くべからず」といましめ、火うちけして弾正一人箕踞して居れり。果心つい立ちて広櫛をあゆみ、

前裁の間へ行くとて見えし。俄かに月くらく雨そぼふりて、風声肃颯たり。篷窓の裡にして

漓湘にただよひ、荻花の下にして潯陽にさまよふらんもかくやと思ふばかり、物がなしくあぢ

きなし。氣よはく心ぼそくしてたへがたくなむ。「いかにしてかく成りぬるや」と、はるかに外をみやりたるに、広櫛にたたずむ人あり。雲すきに見出しぬれば、ほそくやせたる女の髪長くふり

さげたるが、間ぢかくあゆみよりて弾正にむかひて坐せり。「何人ぞや」といへば、大息ついて苦しげなる声して、「今夜はいとつれづれにやおはすらん。人さへなくて」といふをきけば、うた

がふべくもあらず、五年以前病死してあかぬわかれをかなしみぬる妻女なりけり。弾正 たへがたくすさまじければ、果心居士やめやめとよばはるに、件の女たちまち居士が声となり、これに

侍るなりと見れば果心なり。いかがして是れほどまで人の心をまどはすらむと 弾正もあきれてけり。もとより雨もふらず、月もはれわたりて雲も去りけり。

此の居士が術は、奈良辺の老人まのあたり見たりと云ふもの、山人が童稚の比語りぬる。元興寺の塔へいづくよりか登りけん、九輪の頂上に立ちゐて衣服ぬぎてふるひ、又うちきて帯し

めて頂上に腰かけて、世上を眺望して下りたるとぞ。種々の神変も多かれど、怪事はしひてかた

るべからず。今代放下といひて幻術目を驚かす事のみ多かり。これについて思ふに、仙家に奇妙

(中山 三柳『醍醐随筆』から)

(注)

- 1 松永弾正久秀——戦国期の武将。一五一〇—七七。
- 2 多門在城の時——松永弾正が多門山城にいた時。
- 3 近習——主君のそば近くに仕えるもの。
- 4 箕踞——両足を前にのぼして無作法に座ること。
- 5 広縁——幅の広い縁側。
- 6 前栽——庭の植え込み。
- 7 肃颯——風がさつと音をたてて吹くさま。
- 8 篷窓——わらなどを編んで作った敷物を掛けた舟の窓。
- 9 漓湘——中国南部を流れる漓水と湘水。南中国の河川を下る船旅はさらに都から遠ざかることになるため、旅人をいっそう感傷的な気分にした。
- 10 荻花——オギの花。唐代の詩人・白居易の「琵琶行」に、「潯陽江頭夜客送る／楓葉荻花秋索々」(潯陽江のほとりで夜立ちの友を見送ると／紅く色づくカエデの葉、白い岸辺のオギの花、あたり一面ものさびしい秋の風景が広がる)とある。
- 11 潯陽——唐代の郡名。白居易が「琵琶行」を作った地。
- 12 山人——筆者自身のこと。
- 13 童稚——子ども。
- 14 九輪——塔の最上部の柱にある九つの金輪。
- 15 放下——放下僧。手品や曲芸などを演じた大道芸人。
- 16 仙家——仙人。神通力を身につけた不老不死の人々。

問一 波線部「立ちゐて衣服ぬぎてふるひ」を現代仮名遣いに直し、すべて平仮名で書きなさい。

問二 傍線部Ⅰ～Ⅲの口語訳として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

Ⅰ 閑暇の時はかたり慰む

- ア 妻はひまを見つけては夢物語を話して聞かせ、夫の弾正のすきんだ心をなごませた
- イ 居士はいくさの始まる前になると、決まって古の武勇伝を語って弾正を勇気づけた
- ウ 弾正は時間にゆとりがある際は、居士を相手におしゃべりをして気をまぎらわした
- エ 側近たちは手のすいた折に主君の部屋に来、興味深い雑談をして弾正を楽しませた



## Ⅱ 今夜はいとつれづれにやおはすらん

- ア 今夜は何か心配事があるようなご様子とお見受けしますが
- イ 今夜はお一人でさぞかしお淋さびしいことでごさいますよね
- ウ 今夜はたいそうそっけなく振る舞っていらっしやいますよ
- エ 今夜はいつもよりずっと不気味な気配が漂っていませんか

## Ⅲ たへがたくすさまじければ

- ア 気絶するかと思う程にびっくりしたのだが
- イ 抑おさえきれないぐらい居心地が悪かったため
- ウ たとえようもなく激しい動揺を受けながら
- エ 我慢できないほど恐ろしい感じがしたので

問三 本文中には弾正と果心居士の会話文で、「 」をつけていない部分が一か所ずつあります。それぞれ十字以内で抜き出して答えなさい。

問四 傍線部①「寸刃すんじんをも持ちたまはず」とありますが、そのように告げた理由として最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 刀剣には邪気を払い、所有者を守護する力が宿るとされ、幻術を行うさまたげとなるものを遠ざけて必ず成功させようとしたから。
- イ 奇異な現象を妖怪のしわざと考えて斬りつける可能性が高く、その巻き添えをくって危害が自分にまで及ぶのを防ごうとしたから。
- ウ 身を守るべき武器を何ひとつ持たせないことにより、いっそう不安をかきたてて心細さやあせりを確実に体験させようとしたから。
- エ 指図をするのに身分の差があっては何かと都合が悪く、相手に武士のあかしとなる刀を手放させて対等な位置につこうとしたから。

問五 傍線部②「荻花の下にして潯陽にさまよふらん」とありますが、これは(注)に示した通り、「琵琶行」の内容をふまえています。政治上の争いに巻き込まれ、都から遠く離れた地に左遷(官職や地位を降格すること)されていた白居易は、ある夜、一人の歌い手の見事な琵琶の演奏に感動し、またその境遇に深く同情しました。詩の冒頭に置かれた序文には、「今夜この人の身の上話に心打たれ、地方に追いやられた人の悲しい気持ちが始めてわき起こった」ということが、「是夕始覚有遷謫意」(是の夕べ始めて遷謫の意有るを覚ゆ)と漢文で述べられています。この書き下し文の読み方になるように、解答欄の漢文の適当な箇所を、返り点を付けなさい。

問六 傍線部③「彈正もあきれてけり」とありますが、このときの彈正の気持ちを説明したものでして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 自分の心の奥を見透かしたうえ、死者を蘇らせた居士の能力に対して恐れを抱いている。
- イ 怖いものは何もないと語りながら、亡霊を見て震え上がった自分を情けなく思っている。
- ウ 会いたいと思いつづけていた亡き妻に、すぐに会わせてくれた居士に心から感謝している。
- エ 少しも新鮮味のない演出にあきれ果て、居士を招いた側近たちの愚かさに落胆している。

問七 傍線部④「奈良辺の老人」について、次の問いに答えなさい。

(1)「奈良辺の老人」が筆者に語った話は、どこからどこまでですか。本文から抜き出し、**最初と最後の三字**を答えなさい。

(2) 筆者がこの逸話を挿入した意図の説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 「奈良」「元興寺」など具体的な地名をあげて、誰もが興味をもつ面白い物語が自分の生まれ故郷と密接に関連して残ることを示し、郷土に深い愛着があることを広く知らせようとした。

イ 筆者みずからも居士の幻術によってもあそばされ、すっかり記憶を失くして無意識に書いたことを隠さず告白し、居士の実力がどれほど魔性のものであったかを的確に伝えようとした。

ウ 弾正の前で見せた冷たく重々しい態度とはまるで対照的に、居士が明るく朗らかで愉快な一面を持つ豪放な人柄であった話を付け足し、なるべく丁寧な人物の描写を心がけようとした。

エ 居士と同じ時代に生き、本当にその姿を目撃した老人から直接に体験談を聞いたとすることで、話に真実味を加え、居士の幻術が驚くべき神業かみわざであったことを強く印象づけようとした。

問八 筆者は「幻術」について、どのように考えていますか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 幻術は多種多様であり、放下僧の手品や曲芸も幻術の中に含まれ、これは民衆の心を慰めていやしを与えるから高い評価が与えられる。

イ 人の心を惑わす幻術については意見を述べる価値がなく、また理解できない不可思議な現象や出来事はむやみに話題にしてはならない。

ウ 果心居士の幻術は、大むかしの仙人が考え出した不思議な変化へんげの術に由来するもので、進んで後世に伝えるべきすばらしい技である。

エ 今日こんにちの幻術は目の錯覚や催眠術を利用して、人を驚かせ奇妙な感覚にさせようとする無邪気な遊びだから、批判するのは大人げない。

問九 本文の内容と合致するものを次の中から二つを選び、記号で答えなさい。

ア 長らく失っていた人間らしさを居士の力によって取り戻すことができた弾正は、親愛の情や信頼の心を忘れていた過去の行いを反省し、人々に優しい心で接しようと思決した。

イ 天下をねらう弾正は自分の怒りっぽい性格を直そうと考え、名高い居士の幻術に頼ってはみたが効果は得られず、期待を裏切られた結果、居士に幻術を禁止する命令を下した。

ウ 妻との死別を残念に思っていた弾正は、再び会えたことを喜んだものの、さすがに死者との再会は不吉で気味が悪く、しだいに不快な感情が起こり、居士への警戒心が芽生えた。

エ 正義感の強い居士は、思いあがった弾正を懲らしめてやろうと待ちかまえ、すばやく相手の弱点を見抜いた上で、そこにうまくつけ込んで見事に相手を追い込むことに成功した。

オ 超人的な能力を身につけた居士は、勇将として名高い大和の弾正を訪ね、御前で幻術を披露してその技量を誇示し、弾正の支持を後ろだてとして名声を手に入れようと企てた。

カ 庭に現れた女の正体が初めはよくわからなかった弾正であったが、女が死ぬ時の様子を懐かしい声で細かく語ってくれたことにより、それが亡き妻であると気付くことができた。